

# 火山防災エキスパート派遣に係る参考資料

## 【新潟焼山】

### 目次

1.日程・参加者等 .....	1
2. 派遣先において直面している課題や問題意識 .....	1
3.火山の概要 .....	2
① 火山活動の歴史 .....	2
② 噴火の特徴.....	2
③ 火山災害の履歴 .....	2
④ 現在の活動状況 .....	3
4.観測体制 .....	4
5.新潟焼山の火山防災対策に関する取組 .....	5
① 火山防災協議会による連携体制及び取組 .....	5
② 噴火警戒レベルの運用について.....	6
③ 火山防災マップ等の整備.....	7
④ 登山届の提出の義務付け.....	8
⑤ 具体的で実践的な避難計画の策定 .....	9
⑥ 「新潟焼山の噴火活動が活発化した場合の避難計画」 .....	10
⑦ 防災訓練の実施 .....	11
⑧ 防災講演会の開催.....	12
7.糸魚川ジオパーク .....	13

## 1. 日程・参加者等

- 派遣内容 火山防災講演会の開催
- 派遣日時 平成 27 年 8 月 9 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分
- 派遣場所 新潟県妙高市役所 1 階 コラボホール
- 派遣先事務局 新潟焼山火山防災協議会
- エキスパート 杉本 伸一（三陸ジオパーク推進協議会上席ジオパーク推進員  
（いわて復興応援隊））
- 火山災害対応経験者 横山 安博（高原町議会事務局長）
- 参加者 一般住民及び、火山防災協議会関係者（約 100 名）

## 2. 派遣先において直面している課題や問題意識

新潟焼山火山防災協議会では、住民等の火山防災に関する意識啓発を目的に、毎年「新潟焼山火山防災講演会」を開催している。昨年度、糸魚川市内で開催されたが、新潟焼山の南東側にあたる妙高市からの出席者がほとんどなかった。

事前周知が十分でなかったことも考えられるが、現状の火山ハザードマップや噴火シナリオでは、火砕流などの被害が居住地域に及んでいるのは糸魚川市であり、また協議会の避難計画についても糸魚川市が中心になっており、こうしたことから、火山防災に関する住民意識に温度差があると考えられる。しかし、噴火災害は、その被害や影響が広域に及ぶ可能性のある災害であり、妙高市にも降灰などの影響が想定されている。協議会の構成メンバーである妙高市の地域住民にも火山防災への意識向上を図っておくことが望まれる。

### 3. 火山の概要

#### ① 火山活動の歴史

約 3000 年前に活動を開始したと考えられている。約 1000 年前の噴火では、日本海にまで達する火砕流が発生したほか、火口から約 6.5km まで溶岩流が流下した。

日本海まで達するような火砕流を伴う噴火が 3 回あったことがわかっており、最後のマグマ噴火は 1773 年に発生している。近年では、1949～1983 年にしばしば小規模噴火を繰り返したほか、1987 年～1995 年、1997 年～1998 年には噴気活動が活発化した。

出典：「火山噴火予知連絡会 火山観測体制等に関する検討会報告」（平成 22 年 2 月）

#### ② 噴火の特徴

焼山の噴火活動では、約 400 年に一度の大噴火及びもっと短い不規則な周期で繰り返される小規模な噴火が考えられる。過去の噴火の例から示される、焼山の噴火の特徴は次のとおりである。

- ・大噴火の際には必ず火砕流と火砕サージを噴出する。
- ・大噴火の初期の段階で水蒸気マグマ噴火が発生しやすい。
- ・噴火に伴って火山泥流が発生することが多い。特に積雪期に火砕流が噴出した場合は、火砕流が大規模な火山泥流となって更に大きな被害を引き起こす。

出典：糸魚川市地域防災計画（平成 25 年）

#### ③ 火山災害の履歴

9 世紀以降、多くの噴火記録があり 887 年、1361 年、1773 年などの大きな噴火の際には、火砕流を流出している。

1949 年 2 月 5 日、約 100 年ぶりの噴火で、関東地方の北部にまで火山灰が降った。その後、6 月から 7 月にかけての大雨の影響で山腹に積もった火山灰が泥流となって北麓の早川を流下、農業施設などに被害をもたらした。

1974 年 7 月 28 日未明、水蒸気爆発が起き、キャンプ中の登山者 3 名が噴石の直撃を受けて死亡した。このときも泥流が早川を流下し、農業用水や発電所の施設に被害を与えた。

参照：(1) 気象庁編（2005）日本活火山総覧（第 4 版）

(2) 火山に強くなる本 山と溪谷社

#### <噴火災害の履歴>

西暦	噴火活動の内容
887(仁和 3)年	・ 崩壊？
989(永延 3)年	・ 噴火？
1361(正平 16)年	・ 崩壊？（大噴火？火砕流？今のドーム形成？）
1773(安永 2)年	・ 噴火 北方へ火砕流。
1852～54(嘉永 5～安政元)年	・ 1852 年 11 月 1 日夜 噴火、翌年 5 月頃まで続く。1 ・ 854 年にも噴火。噴火地点は北西山腹の割れ目で多くの噴気孔を生成し多量の硫黄を噴出。
1949(昭和 24)年 2 月 5 日	・ 噴火 爆発音、北関東に降灰。2 月 8 日にも噴火、爆発音。

西暦	噴火活動の内容
1949(昭和24)年5月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 噴火</li> <li>▪ 鳴動、爆発音。雪解けに伴い5月14日から早川変色。</li> </ul>
1949(昭和24)年7月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 泥流。大雨のため泥流となり被害。</li> </ul>
1949(昭和24)年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 噴火</li> </ul>
1962(昭和37)年3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 小噴火、降灰。</li> </ul>
1963(昭和38)年2、3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ごく小規模な爆発。山頂付近に降灰。</li> </ul>
1963(昭和38)年7、8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 異常音響。</li> </ul>
1974(昭和49)年7月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 28日未明に割れ目噴火の水蒸気爆発。降灰域は北東100kmに及ぶ。降灰65万トン。泥流流出。噴石のため山頂付近にキャンプ中の登山者<b>3名死亡</b>。</li> </ul>
1983(昭和58)年4月14～15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 噴火</li> <li>▪ 焼山中央火口の西寄りの古い噴気孔で、極めて小規模な水蒸気爆発。山頂付近降灰。</li> </ul>
1997～1998(平成9～10)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 噴火</li> <li>▪ 97年10月29日、11月8-9、12日～8年2-3月30日。山頂付近で噴気活発。1987年5月、1989年3～4月に活発で、灰白色の噴煙や雪面変色も見られた。また、1997年10月以降噴気量が増加し、1997年10月29日以降、1998年2月下旬～3月30日の間に4回火山灰を噴出させる活動があった。</li> </ul>

出典：気象庁編（2005）日本活火山総覧（第4版）  
出典：日本活火山総覧（第4版）、気象庁編 平成25年

#### ④ 現在の活動状況

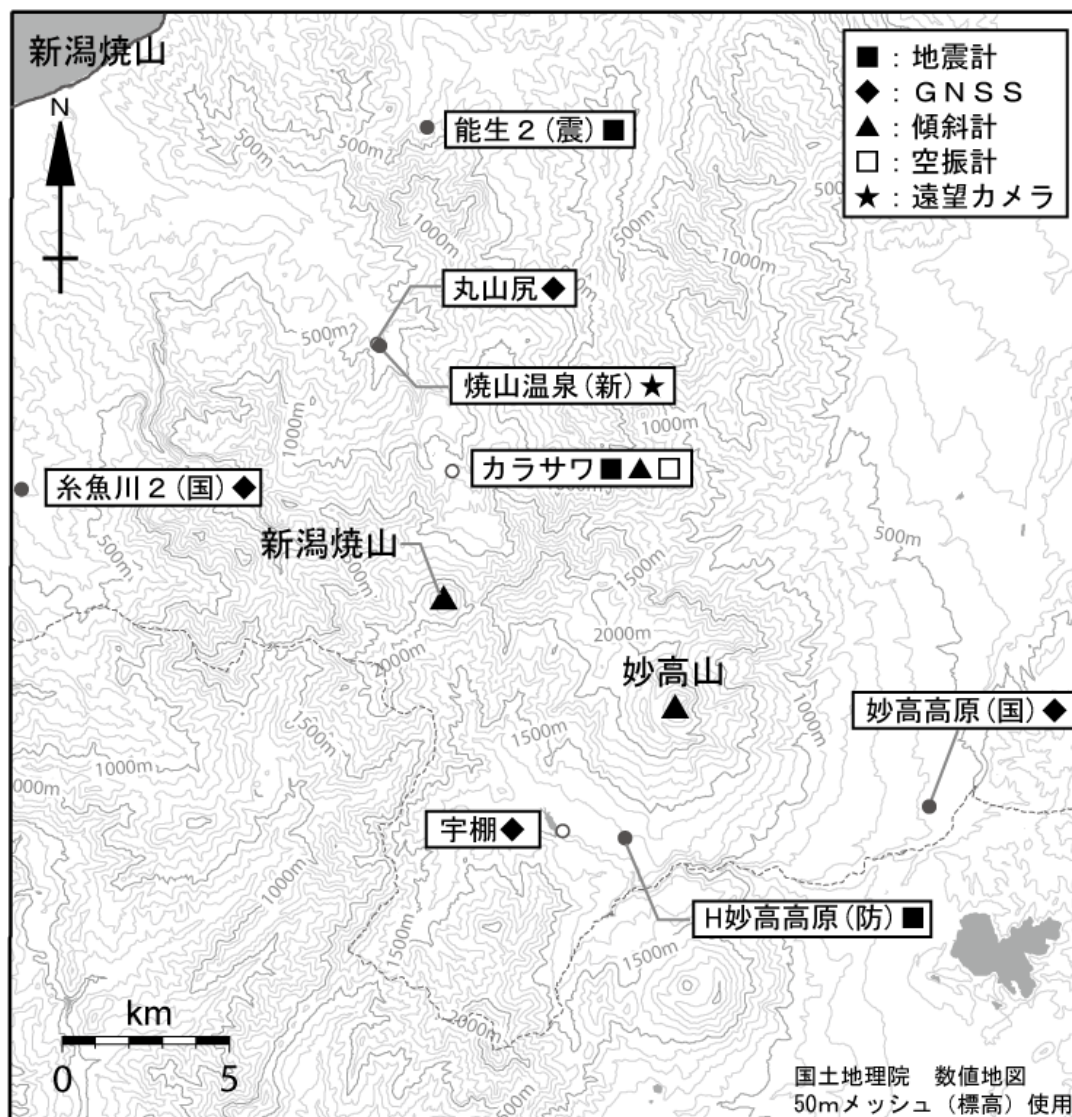
火山活動は静穏。山頂部には少量の噴気がみられる。

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

気象庁報道発表資料「第131回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価」（平成27年6月）  
([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/tokyo/15m06/307\\_15m06.pdf](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/tokyo/15m06/307_15m06.pdf))

## 4. 観測体制

新潟焼山の観測点配置図は以下のとおり



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点を示している。

(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、(新) : 新潟県

出典 : 「新潟焼山 観測点配置図」、気象庁ホームページ

[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/307\\_Niigata-Yakeyama/307\\_Obs\\_points.html](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/307_Niigata-Yakeyama/307_Obs_points.html)

また、気象庁観測点一覧は以下のとおりである。

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高 (m)			
地震計 ■	カラサワ	36° 57.35′	138° 02.29′	1147	-100	2010.09.16	短周期 3成分
傾斜計 ▲	カラサワ	36° 57.4′	138° 02.3′	1147	-100	2011.04.01	
空震計 □	カラサワ	36° 57.4′	138° 02.3′	1147	9	2010.09.16	
GNSS ◆	丸山尻	36° 59.5′	138° 00.8′	486	4	2010.10.01	2周波
	宇棚	36° 51.5′	138° 04.5′	1229	17	2010.10.01	2周波

## 5. 新潟焼山の火山防災対策に関する取組

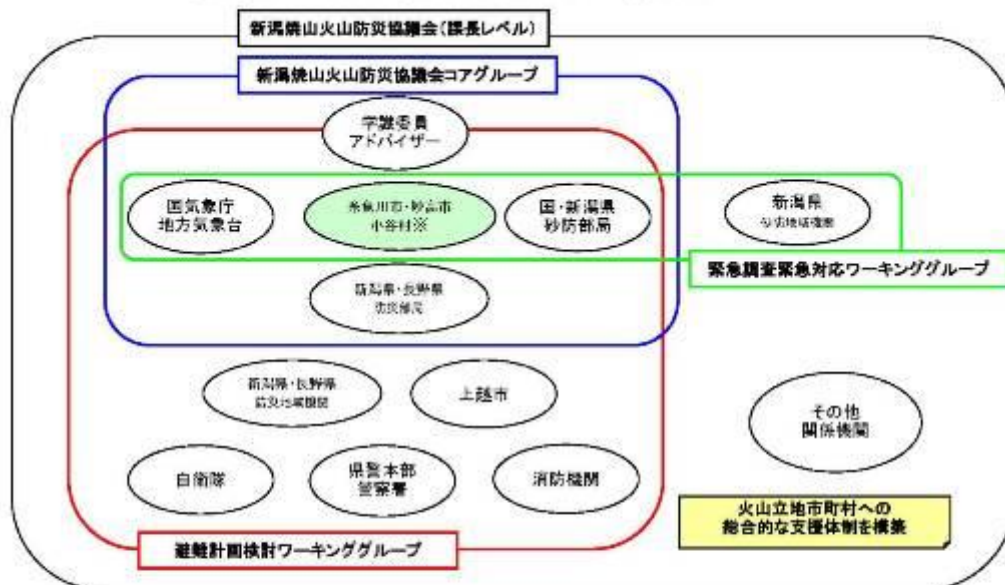
### ① 火山防災協議会による連携体制及び取組

平成 21 年 10 月に設置された新潟焼山火山防災連絡会を前身として、平成 25 年 1 月に新潟焼山火山防災協議会（以下「協議会」と省略）が設立された。

協議会では所掌事務の総合調整、及び避難対象地域や避難判断時期を検討する「コアグループ会議」が設置され、さらに協議会の行う所掌事務の詳細検討のため、「避難計画検討ワーキンググループ会議」、「緊急調査・緊急対応ワーキンググループ会議」が設置されている。

協議会及び各会議の関係を表すイメージ図を下記に掲載する。

### 新潟焼山火山防災協議会の構成イメージ



新潟焼山火山防災協議会	新潟県地域防災計画に基づき、県、関係市町村並びに関係機関の連携を確立し、平常時から新潟焼山の噴火時の総合的な避難対策等に関する検討を共同で行うことにより、火山災害に対する防災体制の構築を推進する
新潟焼山火山防災協議会コアグループ	協議会における検討事項の総合調整等を行うとともに、「避難対象地域」及び「避難判断時期」等の噴火予測に関する技術的検討を行う
避難計画検討ワーキンググループ	噴火警戒レベルに応じた具体的な防災対策、特にレベル4～5の住民避難に関する具体的な計画を検討する
緊急調査・緊急対応ワーキンググループ	噴火前兆等が観測された場合等の緊急調査、および緊急減災対策等のハード対策を検討する

※小谷村は、協議会コアグループと避難計画検討ワーキンググループに所属

出典：「新潟焼山火山防災協議会の構成イメージ」 第1回新潟焼山火山防災協議会資料  
[http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML\\_Article/453/862/4-2.pdf](http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/453/862/4-2.pdf)

② 噴火警戒レベルの運用について

平成 23 年 3 月 31 日より噴火警戒レベルが運用されている。

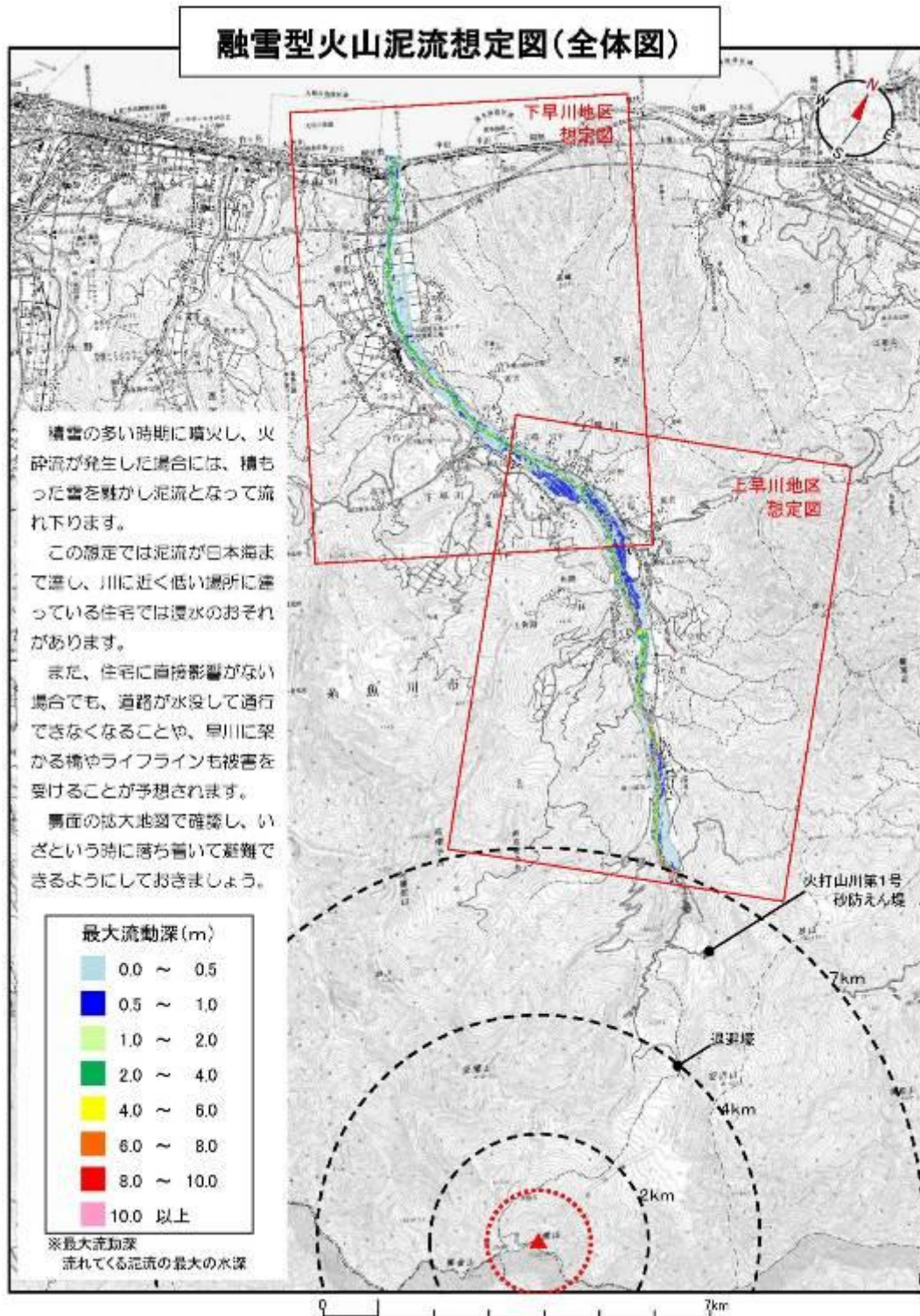
新潟焼山の噴火警戒レベル					
予報 警報	対象 範囲	レベル (レベル)	火山活動の状況	住民等の行動及び 登山者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	● マグマ噴火が発生し、火砕流、溶岩流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。 <b>過去事例</b> 887年※：火砕流・溶岩流の発生。火砕流は日本海に達したと思われる。溶岩流は火口から約6.5kmまで到達。 1361年：火砕流が日本海へ到達。 1773年：火砕流発生。一部は南側にも流下。
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、避難行動要支援者の避難等が必要。	● 火砕流、溶岩流、融雪型泥流（積雪期）が居住地域まで到達するような噴火の発生が予想される。 ● 火砕流、溶岩流が発生し、噴火がさらに拡大した場合には居住地域まで到達すると予想される。
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて避難行動要支援者の避難準備、登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	● 山頂から半径4km程度まで噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。 ● 居住地域に到達しない程度の火砕流、溶岩流を伴う噴火が発生、または予想される。
	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	● 山頂から半径2km程度まで噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。 <b>過去事例</b> 1974年：水蒸気噴火が発生し、噴石が火口から約1km程度まで飛散
噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	● 火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。

注）ここでいう「噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。  
※「887年」については、1235年の鎌倉時代になるとの報告（早川ほか、2011）がある。  
この噴火警戒レベルは、地元市町村等と調整の上で作成したものです。  
各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、関係する各市町村にお問い合わせください。

出典：新潟焼山の噴火警戒レベルリーフレット，気象庁ホームページ  
<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/Niigata-Yakeyama.pdf>

### ③ 火山防災マップ等の整備

平成 27 年 3 月に、積雪期に噴火し融雪型火山泥流が発生した場合を想定したマップを新たに作成した。協議会での検討された噴火シナリオや避難計画についても記載されている。



出典：糸魚川市ホームページ「火山防災ハザードマップ」より  
<http://www.city.itoigawa.lg.jp/secure/4895/H27.3yakeyama-A.pdf>



#### ④ 登山届の提出の義務付け

平成27年6月1日より「新潟焼山における火山災害による遭難の防止に関する条例」が施工された。この条例は、新潟焼山への登山者から届出をしてもらうことにより、登山者による事前準備の徹底、火山災害による遭難の防止を図ることを目的としている。

登山届は新潟焼山の山頂から2キロメートル以内の地域に立ち入る場合に提出が義務付けられている。提出先は、新潟県防災企画課等へ持参、郵送、ファックス、電子メール等で行うものとされている。



**新潟焼山に登山するときは、登山届を必ず提出しましょう!!**

平成27年6月1日より「新潟焼山の活火山地区」に登山する際は、登山届の提出が義務化されました。魚釣りや山菜採りて入る際も、「新潟焼山の活火山地区」に入る場合は、登山届の提出が必要です。

新潟焼山の活火山地区：山頂から2キロメートル以内の地域

**【新潟焼山登山のポイント】**

- 活火山である新潟焼山の特色を踏まえた上で、詳細な登山計画を作成し提出しましょう。
- 作成した登山計画に基づいた装備品などを携帯して登山しましょう。
- 登山前に、県警庁などから提供される新潟焼山の火山活動に関する最新情報を確認しましょう。
- 登山することを、家族、知人など周りの人に伝えてから登山しましょう。
- 登山中は、火山ガスなどの火山現象の発生に注意しましょう。
- 変化を感じたときには、速攻であつても下山するなど安全な行動をとります。
- 緊急連絡メール等を受信できるように、登山中は、携帯電話等の電源を切らないようにしましょう。また、電池切れに備えて予備バッテリーを携帯しましょう。
- 携帯電話の電波が届かない箇所もあるため、ラジオを携帯するなどから火山情報を取得しましょう。また、取得した情報は、周りの登山者にも伝えましょう。

新潟県防災局防災企画課

平成27年6月から「新潟焼山の活火山地区」に登山する際には、条例により知事への届出が義務づけられました。

届け出をせずに「新潟焼山の活火山地区」に登山した者に対しては、警告、過料が適用されます。<sup>※1</sup>

※1 活火山地区以外については、条例による届出の義務づけはありませんが、他の山同様にご自身のマナーとして届出をお願いします。

※2 条例の施行日(平成27年6月1日)から起算して2年を超えない範囲で施行されます。

**届出が必要な項目**

- ① 登山者の住所、氏名、性別及び年齢
- ② 登山の期間及び行程
- ③ 登山の際に携帯する装備品、飲料水及び食料の内容
- ④ 登山中に連絡の取れる携帯電話、無線その他連絡手段
- ⑤ 自宅など緊急時における連絡先

※届出が必要な項目が記入してあれば様式は問いません。

**届出先と方法** 郵送、ファックス、電子メール、持参<sup>※1</sup>により下記に提出してください。

新潟県防災局防災企画課<sup>※2</sup>  
 (新潟焼山火山事務所) <http://www.pref.niigata.lg.jp/bosai/kyaku/yakeyama.html>  
 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 FAX:025-284-1607 電子メール:ngt130010@pref.niigata.lg.jp

新潟県警察本部地域部地域課<sup>※3</sup>  
 (登山計画書のページ) <http://www.police.pref.niigata.jp/osirase/aangaku/kaikakuayo.html>  
 〒950-8553 新潟市中央区新光町4番地1 FAX:025-284-5301 電子メール:kenku@police.pref.niigata.jp

日本山岳ガイド協会(オンラインによる届出のみ)  
 オンライン登山計画(登山届)システムコンパス

<http://www.n0-sarepaa.com>  
 山岳ガイド協会に会員登録が完了している方のみご利用いただけます。

※1 魚釣りや山菜採り、新雪中の登山口などに設置してある登山届提出機への提出も可能です。  
 (設置場所については、ホームページでご確認ください。)

※2 活火山地域防災局企画課、上越地域防災局企画課等においても、受付時間(平日8:30-17:15)に持参される場合受付します。

※3 登山する山の最寄り警察署でも受付します。

**条例に関するお問い合わせ先**

新潟県防災局防災企画課  
 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
 電話:025-282-1805 FAX:025-282-1607  
 電子メール:ngt130010@pref.niigata.lg.jp  
 (新潟県防災局ホームページ) <http://www.pref.niigata.lg.jp/bosai/>

出典：新潟県ホームページより

「新潟焼山における火山災害による遭難の防止に関する条例リーフレット(表)」

[http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML\\_Article/457/882/yake%20omote,1.pdf](http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/457/882/yake%20omote,1.pdf)

「新潟焼山における火山災害による遭難の防止に関する条例リーフレット(裏)」

[http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML\\_Article/619/197/yake%20ura,1.pdf](http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/619/197/yake%20ura,1.pdf)

### ⑤ 具体的で実践的な避難計画の策定

現状の火山ハザードマップで大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流の影響範囲にある市町村と、火山防災協議会に参加している市町村を対象に、具体的な避難計画の策定状況についての調査が行われた。全 20 項目のうち、「いつ?」「だれが?」「どこからどこへ?」「どうやって?」に係る重点項目（オレンジ色の項目）が全て「◎」「○」「—」の場合、具体的な避難計画が策定されている。

◎：項目の必要事項の全てが定められており、地域防災計画にも明記されている。      ○：項目の必要事項の全てが定められている（地域防災計画に明記されていない）。  
 △：項目の必要事項の一部が定められていない。      ×：項目の必要事項の全てが定められていない。  
 -：現状の火山ハザードマップでは影響範囲外のため評価の対象外である。

**★：重点項目が具体的に定められている市町村**

火山	火山防災協議会	噴火シナリオ	噴火シナリオ	噴火シナリオ	都道府県	市町村	影響範囲内に	影響範囲内に	一時滞在範囲内に	調査項目																								
										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
										火山防災協議会	コアG	災対本部設置時期	災対本部代替施設	合同対策本部等	噴火シナリオ	入山規制実施時期<重点項目>	入山規制実施範囲<重点項目>	避難実施時期<重点項目>	避難対象地域<重点項目>	噴火時の交通規制	広域避難受入先	観光客への情報伝達	観光客への避難誘導	住民への情報伝達	避難ルート<重点項目>	代替避難ルート	避難所<重点項目>	輸送手段<重点項目>	代替輸送手段					
新潟焼山	☆	☆	☆	☆	新潟県	糸魚川市	有	有	有	○	○	○	—	×	○	○	○	○	—	○	×	○	×	◎	○	×	○	○	○					
						妙高市	有	無	無	○	○	×	—	×	○	○	○	—	—	—	—	—	○	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
						上越市	無	無	無	○	—	◎	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
						長野県 小谷村	有	無	無	○	○	×	—	×	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—

[火山防災ポータルサイト 具体的な避難計画策定状況より抜粋]

## ⑥ 「新潟焼山の噴火活動が活発化した場合の避難計画（H27.3修正）」

新潟焼山火山防災協議会において、平成26年2月に「新潟焼山の噴火活動が活発化した場合の避難計画」を策定されていた。その後、平成26年9月の御嶽山噴火等を踏まえて、関係機関の情報連絡体制などについて見直しが行われた。

**新潟焼山の噴火活動が活発化した場合の避難計画（概要）**
平成27年3月

**避難計画の策定**

- 『噴火シナリオ』・『噴火警戒レベル』に対応した『具体的で実践的な避難計画』を策定
- 火山現象の影響範囲は、生命に対する危険性が高い「大きな噴石」「火砕流」「融雪型火山泥流」を対象に過去の噴火実績や緊急減災対策砂防計画（案）に基づき設定

**住民避難対象地域・避難方法**

- 過去の噴火実績や溶岩流・火砕流・融雪型火山泥流等の数値シミュレーション結果などから、居住地域への影響が想定される早川地区の**具体的な避難計画**を中心に策定
- 住民避難にあたっては、事態の状況（噴火警戒レベル）に応じて**段階的な避難**を実施
- 具体的には、各地区等の一時集合場所までは原則自力避難し、そこから避難所へは相互相乗りまたは市が手配するバスにより避難する。

**噴火警戒レベルに対応した避難（通常期）**

噴火警戒・予報	噴火警戒レベル (キーワード)	現象	想定される影響範囲	居住地域の避難単位
噴火予報	1 (平常)	火山灰等	火山活動の状況により想定火口内 (山頂から概ね半径1km以内)	—
噴火警戒 (火口周辺)	2 (火口周辺規制)	大きな噴石	山頂から概ね半径2km以内	—
	3 (入山規制)	大きな噴石	山頂から概ね半径4km以内	—
噴火警戒 (火口周辺警戒 または 火口周辺規制)	4 (避難準備) または 避難	大きな噴石	山頂から概ね半径4km以内	—
	5 (避難) 噴火切警	火砕流	山頂から概ね10km以内の早川流域 (状況によっては真川、海川流域)	上早川地区
噴火警戒 (居住地域) または 噴火警戒	5 (避難) 噴火切警	大きな噴石 火砕流	山頂から概ね半径4km以内 山頂から概ね10km以内の早川流域 (状況によっては真川、海川流域)	早川地区全域

※ 積雪期には、融雪型火山泥流の発生も懸念されることから、居住地域の避難単位は段階的避難ではなく、早川地区全域とする。

凡例 ● 想定火口域 ~ 登山道、林道等

**今回の主な見直し内容**

- 登山者への情報伝達について手順などを整理
- 異常現象等の発見通報について複数の伝達系統を確保

**継続検討課題等** ※今後継続検討した上で必要に応じて避難計画の修正を行う

- 登山者等への対応 → 国レベルでの検討の状況を踏まえながら継続検討
- 避難行動要支援者に対する具体的な避難支援 → 季節や時間帯も含め具体的な避難支援について継続検討 他

## ⑦ 防災訓練の実施

平成 26 年 10 月に、糸魚川市消防本部で図上訓練が行われた。訓練の想定は、新潟焼山の噴火警戒レベルが 3 に引き上げられた状況下における協議会構成各機関の体制、対応を状況予測型の訓練の手法を用いて確認した。



出典：新潟県ホームページ「第 5 回新潟焼山火山防災協議会（図上訓練）」より  
<http://www.pref.niigata.lg.jp/bosaikikaku/1356799741434.html>

## ⑧ 防災講演会の開催

登山中の大学生3名がなくなった昭和49年の新潟焼山噴火から40周年の節目であることから、火山防災に関する意識啓発活動の一環として、平成26年7月27日に糸魚川市の「ビーチホールまがたま」において新潟焼山火山防災講演会が開催された。

基調講演として、石原和弘氏(京都大学 名誉教授/火山噴火予知連絡会 副会長)より「火山の脅威から身を守る ～火山の監視、ハザードマップと避難～」という演題で講演が行われた。また同講演では、「新潟焼山の活動が活発化した時の避難について考える」と題したパネルディスカッションも開催された。



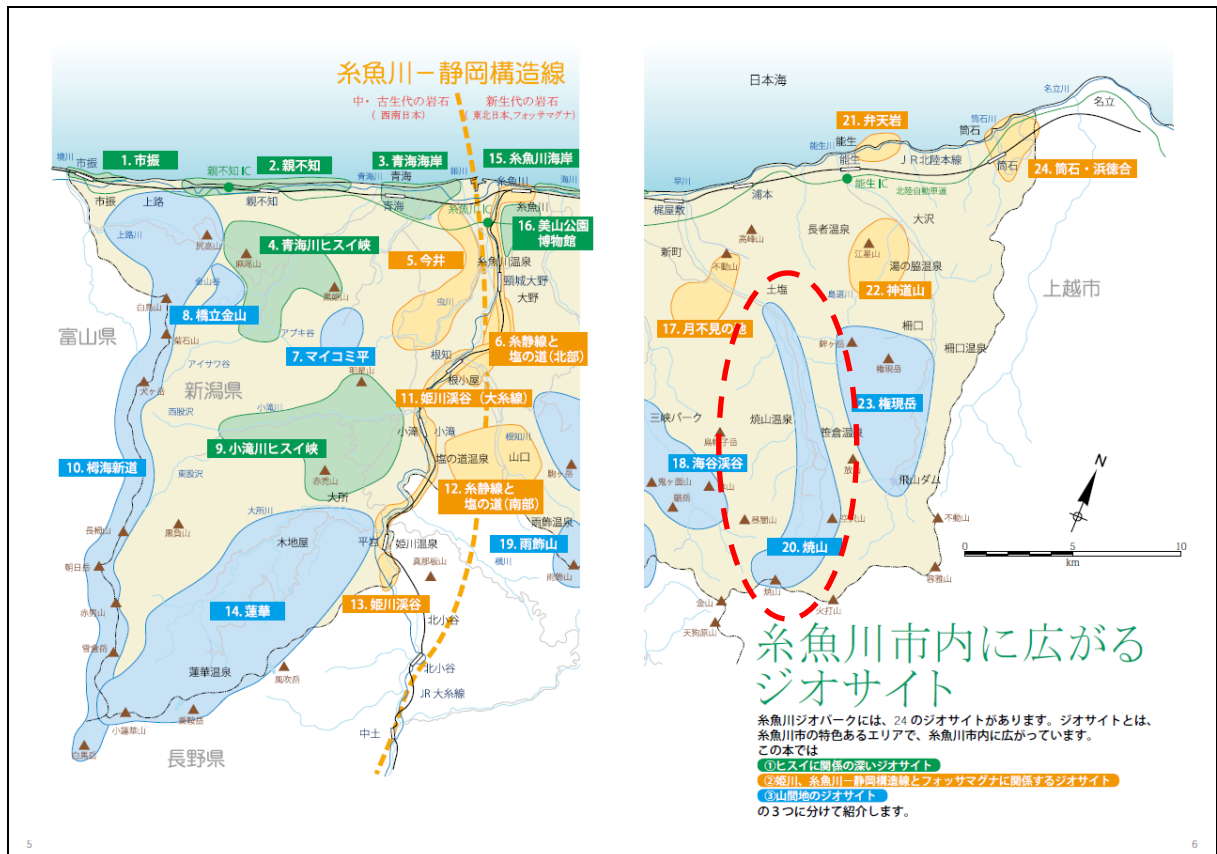
出典：新潟県ホームページ「新潟焼山火山防災講演会(H26.7.27)」より  
<http://www.pref.niigata.lg.jp/bosaikikaku/1356793539948.html>

## 7. 糸魚川ジオパーク

糸魚川ジオパークは、糸魚川市内の糸魚川-静岡構造線やフォッサマグナやヒスイの産出地、山間地など、地質や地形にまつわる観光地や旧跡などを総称したものである。

新潟焼山も山間地によるジオサイトで、火山活動により形成された山地として紹介されている。

2009年、ユネスコが支援する「世界ジオパーク」として認定された。



<糸魚川市内のジオサイト分布図>

出典：糸魚川ジオパークのことがわかる本